

【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号	D-1-1・D-1-15		
事業名	道路事業（高台避難道路）・道路事業（高台避難道路）[補助率変更分]		
事業費	D-1-1	総額 651,046 千円	（国費：488,284 千円）
	D-1-15	総額 80,000 千円	（国費：65,999 千円） 計 731,046 千円
	内訳：用地費 24,150 千円、補償費 4,346 千円、設計費 90,390 千円、 工事費 612,160 千円		
事業期間	平成 24 年度～令和元年度		
事業目的	<p>津波災害に備えて、津波復興拠点整備事業（東地区）を予定しているベイサイドアリーナ周辺地区と低地部東側を連絡する避難道路を整備する。</p> <p>復興拠点連絡道路とともに、国道 45 号線低地部と東側高台との連携を確保することで、志津川地区全体の機能強化を図るもの。</p>		
事業地区	志津川地区（別紙位置図添付）		
事業結果	<p>当事業では、津波復興拠点整備事業で整備した志津川東地区と志津川低地部を結ぶ路線を整備した。</p> <p>【整備内容】 道路延長 L=649m、幅員 W=7m 町道東浜街道線</p> <p><平成 24 年度～平成 25 年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本設計 8,099 千円 <p><平成 25 年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・用地測量 11,970 千円 <p><平成 26 年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・用地買収費 24,150 千円 ・物件補償費 4,346 千円 <p><平成 26 年度～令和元年度></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路等整備事業他委託業務（UR） 682,481 千円 <p>※参考内訳 調査設計費 70,321 千円 道路工事費 612,160 千円</p>		
事業の実績に関する評価	<p>① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価</p> <p>当事業では、志津川低地部で地震・津波被害に遭った際に迅速に高台へ避難できる路線を整備したことにより、低地部で生業を営む町民等が緊急時に避難する路線として活用されることが期待される。</p> <p>また、志津川低地部と志津川東地区を結ぶことで、低地部と防災拠点等を整備した東地区との利便性が向上したことにより、志津川市街地全体のアクセスが強化された。</p>		

② コストに関する調査・分析・評価

当該事業の一部は平成 24 年 3 月に独立行政法人都市再生機構（以下、UR 都市機構）と締結した東日本大震災に係る復興まちづくりの推進に向けた覚書及び平成 24 年 8 月に同じく UR 都市機構と締結した東日本大震災に係る南三陸町復興整備事業の推進に関する協力協定書に基づき委託契約を結び当該道路の整備を行った。復興 CM 方式を導入し、UR 都市機構と CMR が連携のもと、工事施工を行い、コストについては事業実施段階で実際に生じた業務原価（コスト）に報酬（フィー）を上乗せして支払いを行うコストプラスフィー契約や原価の透明性や適正さの確保のため、受注者が発注者にすべてのコストに関する情報を開示し、第三者機関による監査を行うオープンブック方式を併用し算出していることから、適正と考えられる。

なお、町発注分の設計業務等の事業費積算にあたっては、公共土木工事積算基準等により実施し、南三陸町財務規則等に基づき入札により業者の選定を行っているほか、用地買収・物件補償等の価格についても不動産鑑定業務等を実施し、適正な価格設定が行われている。

※ 復興 CM 方式とは、東日本大震災の復興市街地整備事業の実施における技術者のマンパワー不足や大規模工事への対応等の様々な課題に対応するために、東日本大震災で被災した 12 市町 19 地区で導入した新たな入札契約方式。

③ 事業手法に関する調査・分析・評価

高台避難道路の整備にあたっては、用地買収に時間を要したことと、津波拠点（東地区）の造成工事に伴う工事用道路として利用したことから、造成工事の進捗に合わせて供用開始が 4 年程遅れることとなったが、高台造成工事の工事用仮設道路を新たに設置する場合のコストと地域住民の生活へ与える影響を考えると、やむを得ないものと判断される。

<想定した事業期間>

基本設計	平成 24 年 9 月～平成 25 年 3 月
用地測量調査業務	平成 25 年 7 月～平成 25 年 10 月
道路等整備事業他業務（UR）	平成 25 年 11 月～平成 28 年 3 月
道路造成工事	平成 25 年 4 月～平成 28 年 3 月

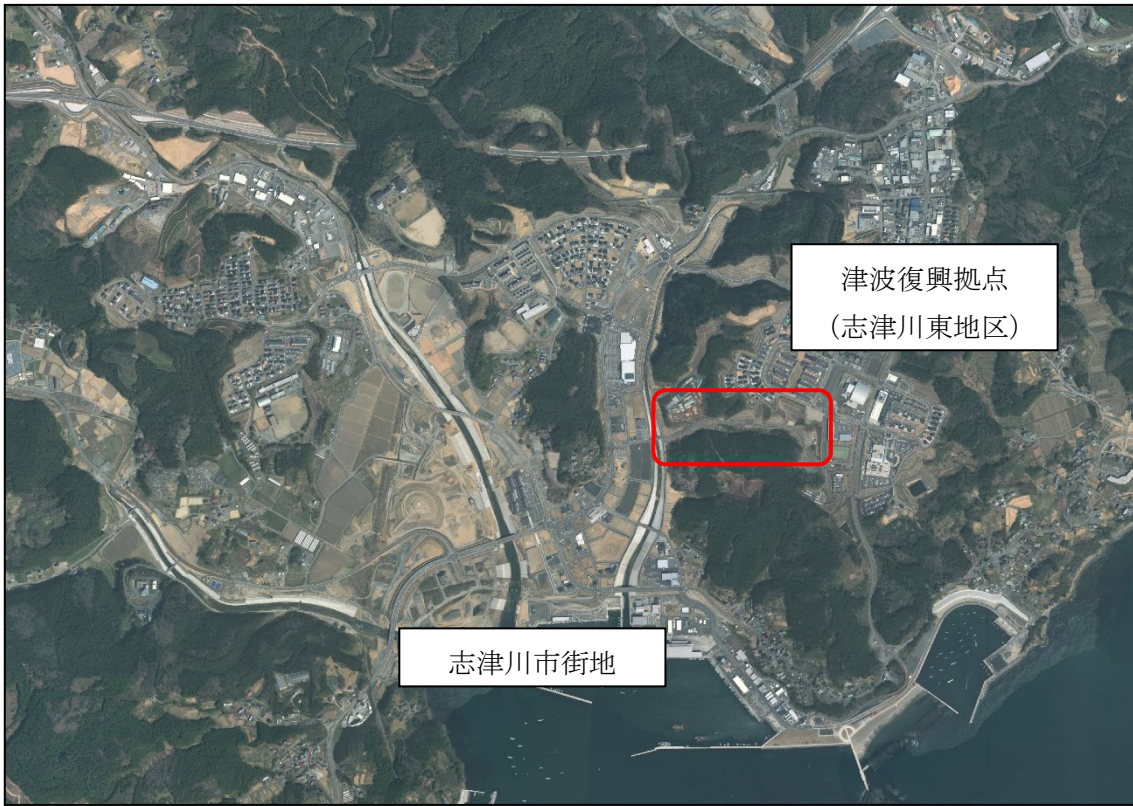
<実際に事業に要した事業期間>

基本設計	平成 24 年 9 月～平成 25 年 12 月
用地測量調査業務	平成 25 年 7 月～平成 26 年 3 月
道路等整備事業他業務（UR）	平成 25 年 11 月～令和 2 年 3 月
道路造成工事	平成 26 年 4 月～平成 30 年 12 月（工事期間含む） （道路供用開始 平成 30 年 4 月）

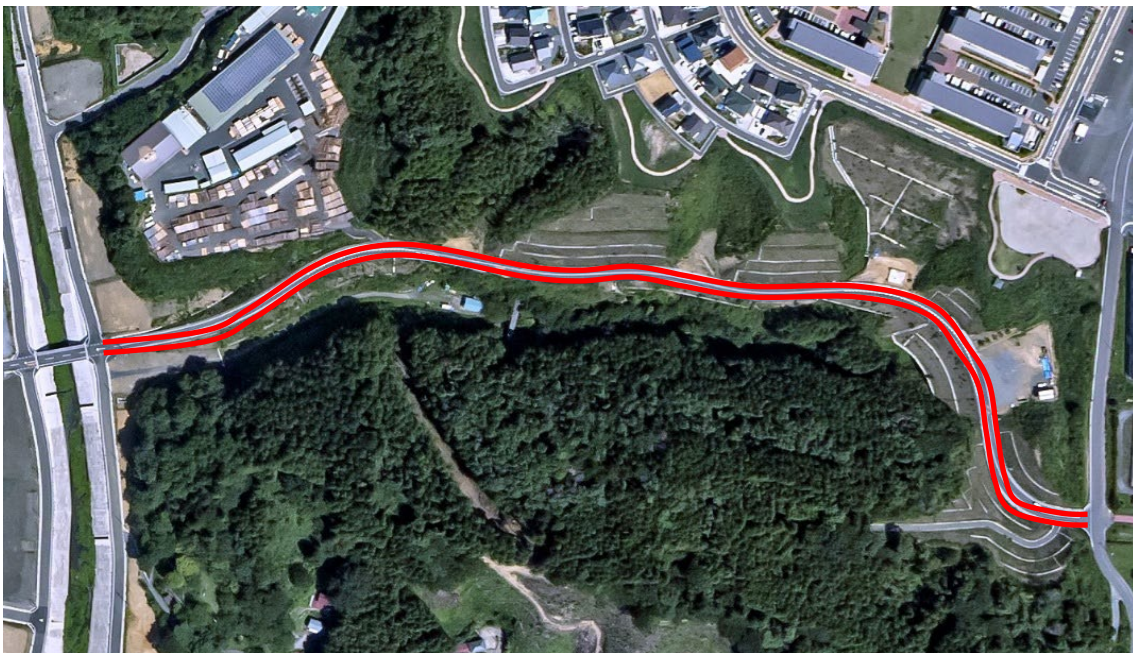
事業担当部局

建設課土木係 電話番号： 0226-46-1377

別紙位置図



完成写真 高台避難道路空撮



完成写真



【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号	D-1-2・D-1-11
事業名	道路事業（復興拠点連絡道路）・道路事業（復興拠点連絡道路）[補助率変更分]
事業費	D-1-2 総額 1,761,637 千円（国費：1,321,227 千円） D-1-11 総額 1,749,070 千円（国費：1,442,982 千円）計 3,510,707 千円 内訳：用地費 106,477 千円、補償費 16,983 千円、設計費 194,127 千円、 工事費 3,193,120 千円
事業期間	平成 24 年度～令和 2 年度
事業目的	復興事業で整備する志津川市街地と防災集団移転促進事業及び津波復興拠点事業の 3 か所の高台住宅地等を結ぶ幹線道路として復興拠点連絡道を整備し、志津川地区全体の機能強化と津波に対する安全性の向上を図るもの。 【計画内容】 道路延長 L=2,700m、幅員 W=12m 【(歩道 2.5m+路肩 0.5m+車道 3.0m) ×2】
事業地区	志津川地区（資料添付）
事業結果	当事業では、津波復興拠点整備事業で整備した志津川東地区及び志津川中央地区と、防災集団移転促進事業で整備した志津川西団地、区画整理事業で整備した志津川低地部を結ぶ路線を整備した。 【整備内容】 道路延長 L=2,700m、幅員 W=12m <平成 24 年度～平成 25 年度> ・基本設計 31,794 千円 <平成 25 年度> ・用地測量 29,070 千円 <平成 26 年度> ・用地測量 1,169 千円 ・用地買収 69,847 千円 ・補償費 15,107 千円 <平成 27 年度> ・用地買収 36,344 千円 <平成 28 年度> ・用地買収 286 千円 ・補償費 1,876 千円 <平成 25 年度～令和元年度> ・道路整備事業委託（UR） 3,320,614 千円 ※参考内訳 調査設計費 132,094 千円

道路工事費 3,188,520 千円

<令和 2 年度>

・条件護岸工事 4,600 千円

事業の実績に関する評価

① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

当事業では、津波復興拠点整備事業で整備した志津川東地区及び志津川中央地区と防災集団移転促進事業で整備した志津川西団地、区画整理事業で整備した志津川低地部を結ぶ路線を整備したことで、各地区間相互の利便性が向上し、志津川市街地全体のアクセスが強化された。

また、低地部での浸水被害が発生した際には安全な移動経路としての役割も期待される。

② コストに関する調査・分析・評価

当該事業の一部は平成 24 年 3 月に独立行政法人都市再生機構（以下、UR 都市機構）と締結した東日本大震災に係る復興まちづくりの推進に向けた覚書及び平成 24 年 8 月に同じく UR 都市機構と締結した東日本大震災に係る南三陸町復興整備事業の推進に関する協力協定書に基づき委託契約を結び当該道路の整備を行い、復興 CM 方式を導入し、UR 都市機構と CMR が連携のもと、工事施工を行い、コストについては事業実施段階で実際に生じた業務原価（コスト）に報酬（フィー）を上乗せして支払いを行うコストプラスフィー契約や原価の透明性や適正さの確保のため、受注者が発注者にすべてのコストに関する情報を開示し、第三者機関による監査を行うオープンブック方式を併用し算出していることから、適正と考えられる。

なお、町発注分の設計業務等の事業費積算にあたっては、公共土木工事積算基準等により実施し、三陸町財務規則等に基づき入札により業者の選定を行っているほか、用地買収・物件補償等の価格についても不動産鑑定業務等を実施し、適正な価格設定が行われている。

※ 復興 CM 方式とは、東日本大震災の復興市街地整備事業の実施における技術者のマンパワー不足や大規模工事への対応等の様々な課題に対応するために、東日本大震災で被災した 12 市町 19 地区で導入した新たな入札契約方式。

③ 事業手法に関する調査・分析・評価

復興拠点連絡道路の整備にあたっては、地権者との用地取得に係る交渉に不測の時間を要し、その後の道路造成工事についても、接続する高台移転先及び市街地の関連工事の工事用道路として利用したことから全線供用開始が遅れ平成 31 年 4 月となった。想定より大幅に遅れる結果となったが、住民の合意形成や用地買収を伴う復興事業であることから、やむを得ないと判断される。なお、令和 3 年 3 月まで工事期間が延長になった要因は、宮城県が実施する八幡川堤防整備工事の遅れに

より、志中大橋（町道）右岸の条件護岸工事が遅れたことによるもの。

その他の関連工事については工程調整を図りながら円滑に業務が進められていたことから、大規模な復興事業における復興CM方式の採用は、事業手法としては効果的であった。

<想定した事業期間>

基本設計	平成 24 年 9 月～平成 25 年 3 月
測量調査業務	平成 25 年 7 月～平成 25 年 10 月
用地買収・補償	平成 24 年 10 月～平成 25 年 3 月
道路造成工事	平成 25 年 4 月～平成 27 年 3 月（工事中利用期間を含む）

<実際に事業に要した事業期間>

基本設計	平成 24 年 9 月～平成 25 年 12 月
測量調査業務	平成 25 年 7 月～平成 26 年 3 月
用地買収・補償	平成 24 年 10 月～平成 28 年 11 月
道路造成工事	平成 26 年 1 月～令和 2 年 3 月 (道路供用開始：平成 31 年 4 月)
河川護岸工事	令和 2 年 11 月～令和 3 年 3 月

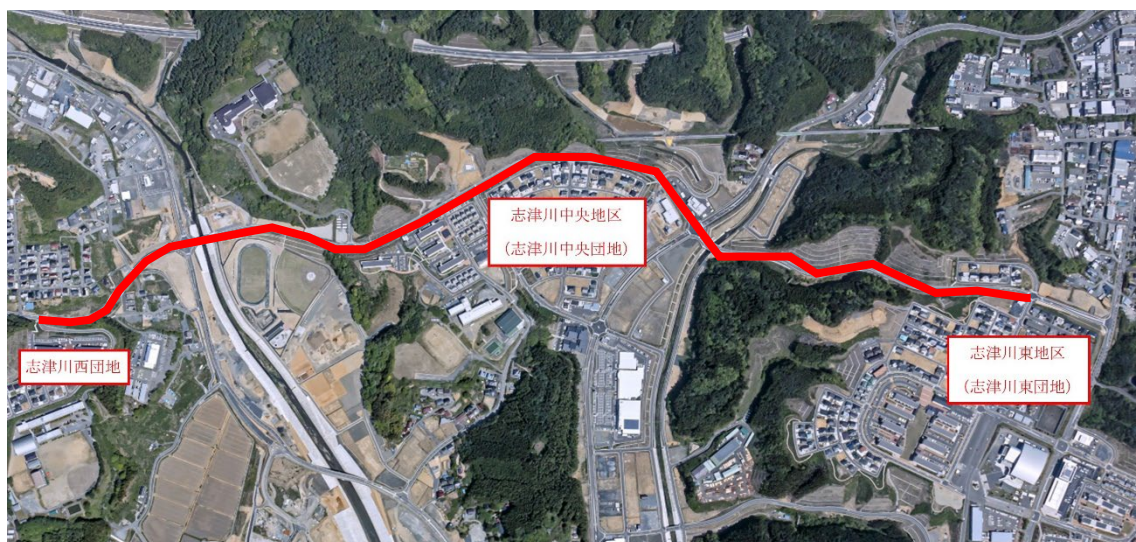
※河川護岸工事は、道路橋脚の設置に伴い段差が生じるため、段差を解消するために橋脚の設置許可の際に付される条件として実施する工事です。

事業担当部局

建設課土木係 電話番号：0226-46-1377

(添付資料)

復興拠点連絡道路空撮（志津川西団地、志津川中央団地、志津川東団地を結ぶ路線）





【復興交付金事業計画の個別事業の実績に関する評価様式】

事業番号 D-4-3
事業名 災害公営住宅整備事業（志津川東地区）
事業費 総額 8,320,691 千円 （国費：7,280,603 千円） 内訳：用地費 4,789 千円、設計費 24,650 千円、工事費 8,291,252 千円
事業期間 平成 25 年度～平成 28 年度
事業目的 自立再建が難しい町民を対象に高台等の安全な宅地に恒久住宅を早期に確保する。
事業地区 志津川東地区
事業結果 第 1,2 街区（96 戸） ・共同住宅 鉄筋コンクリート造 4 階建て（A 棟 41 戸、B 棟 41 戸） ・戸建住宅 木造 2 階建て（14 戸） ・集会所 1 棟 平成 28 年 7 月 1 日より供用開始 第 3 街区（56 戸） ・共同住宅 鉄骨造 4 階建て（E 棟 26 戸、F 棟 30 戸） 平成 28 年 9 月 1 日より供用開始 第 4,5,6 街区（113 戸） ・共同住宅 鉄骨造（6 棟 109 戸） （C 棟 3 階建て 15 戸、D 棟 2 階建て 12 戸、G 棟 3 階建て 17 戸 H 棟 2 階建て 13 戸、I 棟 4 階建て 26 戸、J 棟 4 階建て 26 戸） ・戸建住宅 木造 2 階建て（4 戸） ・集会所 1 棟 平成 29 年 1 月 10 日より供用開始 その他 駐車場 413 台（効果促進事業★D-4-3-1 で整備） <平成 24 年度> ・基本設計 8,201 千円 <平成 25 年度> ・用地費・補償費 2,978 千円 <平成 26 年度> ・測量設計 16,450 千円 ・用地費・補償費 1,811 千円

・ 建築工事 242,152 千円

<平成 27 年度>

・ 建築工事 693,047 千円

<平成 28 年度>

・ 建築工事 7,356 千円

事業の実績に関する評価

本事業が実施された志津川東団地は、津波復興拠点整備事業で面的整備を行った地域であり、役場をはじめとした公共施設や病院に近接した団地である。志津川東地区の災害公営住宅は町内最大の災害公営住宅であり、津波復興拠点整備事業、防災集団移転事業と連動し、町内の多くの被災者に新たな生活拠点を提供できた。

① 事業結果の活用状況に関する調査・分析・評価

入谷地区災害公営住宅は全 265 戸に対し、令和 2 年末時点で被災世帯 256 戸が入居（入居率 97%）しており、当初の被災者の恒久住宅確保の目的を達成し、有効に活用されていると判断される。現在、空き戸は町営住宅として活用している。

② コストに関する調査・分析・評価

事業費の設計・積算は宮城県復興住宅計画の整備方針及び宮城県災害公営住宅整備指針〈ガイドライン〉に定める基本的な考え方のもと、宮城県災害公営住宅設計標準等に基づき実施し、譲渡契約時の仕様等に反映させることで、計画予算の範囲で取得できたことから、適切なコストであったと判断される。

③ 事業手法に関する調査・分析・評価

本事業のうち、共同住宅は UR 都市機構と譲渡契約を行うことで事業期間を大幅に短縮することができ、完成した住宅から順次入居を開始することで早期の住宅供給を実現できた。

また、戸建住宅の建築においては、地元の建築関連業者で組織された南三陸町木造災害公営住宅建設推進協議会と譲渡契約を行い、住宅規格をパターン化することで、資材の発注から施工を複数社で同時に実施することが可能となり、工期の短縮が図られたほか、地元木材を採用することで、建築業と林業の活性化にも寄与しており、有効な手法であったと考える。

<想定した事業期間>

基本設計 平成 24 年 6 月～平成 25 年 5 月

測量設計、実施設計 平成 25 年 6 月～平成 27 年 5 月

建築工事 平成 27 年 6 月～平成 29 年 5 月

供用開始 平成 29 年 6 月

<実際に事業に要した事業期間>

基本設計 平成 24 年 6 月～平成 24 年 12 月

測量設計、実施設計	平成 24 年 7 月～平成 26 年 7 月
建築工事	平成 25 年 8 月～平成 28 年 12 月
共用開始	※平成 28 年 7 月より完成した住宅から順次入居開始

事業担当部局

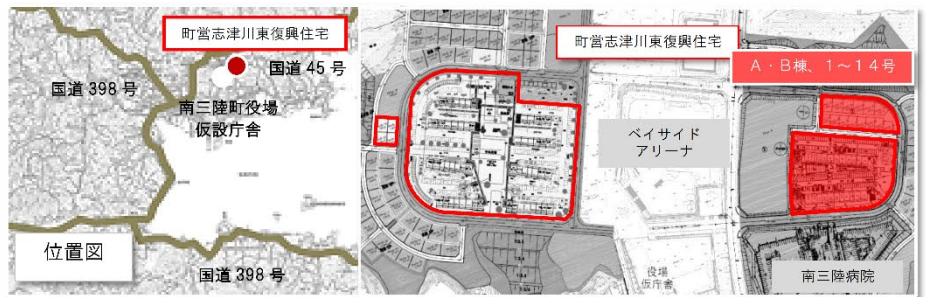
建設課営繕係 電話番号： 0226-46-1377



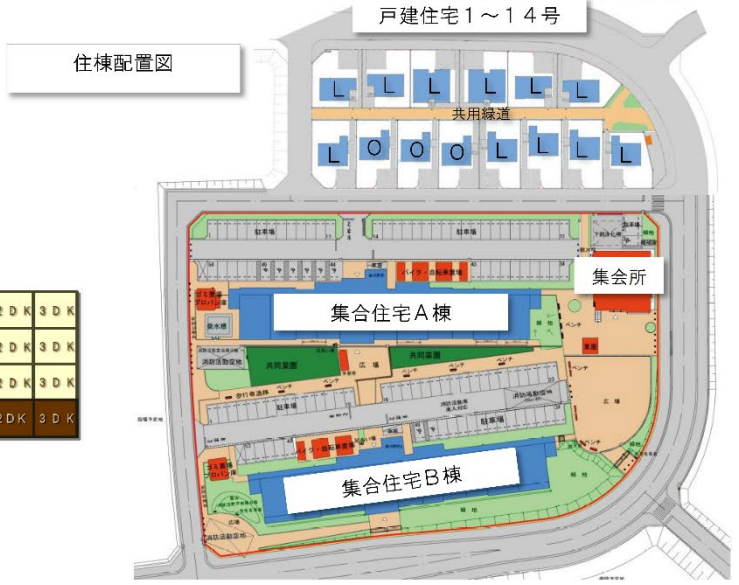
南三陸町営 志津川東復興住宅【A・B棟、1~14号】竣工概要



所在地	南三陸町志津川字沼田			
構造・規模	集合	RC造4階建て	戸建	木造戸建て
戸数	計	82戸	計	14戸
	Sタイプ (約45㎡)	20戸	Lタイプ (約70㎡)	11戸
	Mタイプ (約55㎡)	32戸	Oタイプ (約80㎡)	3戸
	Fタイプ (約70㎡)	30戸		
附帯施設	集会所、駐車場、自転車置場、 ごみ置場、外部物入れ、広場等			
竣工年月	平成28年6月			
海拔高さ	約58~60m			



住戸タイプ配置	A棟	3DK	2DK	2K	2DK	3DK	2DK	3DK	2DK	2K	2DK	3DK
		3DK	2DK	2K	2DK	3DK	2DK	3DK	2DK	2K	2DK	3DK
		3DK	2DK	2K	外部物入れ	ランド	外部物入れ	3DK	2DK	2K	2DK	3DK
		3DK	2DK	2K	外部物入れ	ランド	外部物入れ	3DK	2DK	2K	2DK	3DK
B棟	3DK	2DK	2K	2DK	3DK	2DK	2DK	2K	3DK	3DK		
	3DK	2DK	2K	2DK	3DK	2DK	2DK	2K	3DK	3DK		
	3DK	2DK	2K	2DK	3DK	2DK	2DK	2K	3DK	3DK		
	3DK	2DK	2K	外部物入れ	ランド	外部物入れ	2K	2DK	2K	3DK	3DK	



【Sタイプ】
集合住宅
2K
約45㎡

【Mタイプ】
集合住宅
2DK
約55㎡

【Fタイプ】
集合住宅
3DK
約70㎡

【Lタイプ】
戸建住宅
3DK
約70㎡

【Oタイプ】
戸建住宅
4DK
約80㎡

南三陸町営 志津川東復興住宅【A・B棟、1~14号】 竣工写真

外観

集合住宅



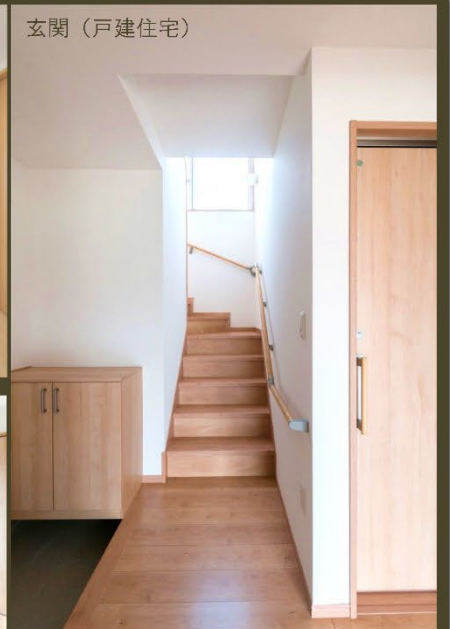
戸建住宅



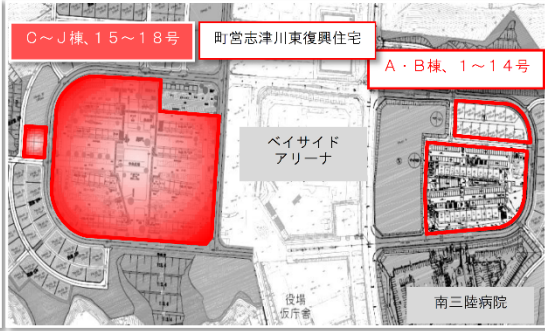
集会所



住戸内



南三陸町営 志津川東復興住宅【C~J棟、15~18号】竣工概要



所在地	南三陸町志津川字天王山			
構造・規模	集合	S造	戸建	木造戸建て
戸数	計	165戸	計	4戸
	Sタイプ	32戸	Lタイプ	4戸
	Mタイプ	85戸	0タイプ	0戸
	Fタイプ	48戸		
附帯施設	集会所、駐車場、広場等			
竣工年月	平成28年12月	海拔高さ	約60m	

住棟配置・住戸タイプ配置図

G棟

3DK	2DK	2DK	2DK	2K	2K
3DK	2DK	2DK	2DK	2K	2K
3DK	2DK	2DK	2DK	2K	2K

H棟

3DK	2DK	2DK	2DK	2K	2K
3DK	2DK	2DK	2DK	2K	2K
3DK	2DK	2DK	2DK	2K	2K

I棟

2DK	2DK	2K	2DK	2DK	2DK	3DK
2DK	2DK	2K	2DK	2DK	2DK	3DK
2DK	2DK	2K	2DK	2DK	2DK	3DK
2DK	2DK	2K	2DK	2DK	2DK	3DK

J棟

3DK	2DK	2DK	3DK	3DK	2DK	2DK
3DK	2DK	2DK	3DK	3DK	2DK	2DK
3DK	2DK	2DK	3DK	3DK	2DK	2DK
3DK	2DK	2DK	3DK	3DK	2DK	2DK

C棟

2K	2K	2DK	2DK	3DK
2K	2K	2DK	2DK	3DK
2K	2K	2DK	2DK	3DK

D棟

2K	2K	2DK	2DK	2DK	3DK
2K	2K	2DK	2DK	2DK	3DK

E棟

3DK	2DK	2DK	2K	2DK	3DK	3DK
3DK	2DK	2DK	2K	2DK	3DK	3DK
3DK	2DK	2DK	2K	2DK	3DK	3DK
3DK	2DK	2DK	2K	2DK	3DK	3DK

F棟

2DK	2DK	3DK	3DK	2K	2DK	2DK	3DK
2DK	2DK	3DK	3DK	2K	2DK	2DK	3DK
2DK	2DK	3DK	3DK	2K	2DK	2DK	3DK
2DK	2DK	3DK	3DK	2K	2DK	2DK	3DK

【Sタイプ】
2K
約45㎡

【Mタイプ】
2DK
約55㎡

【Fタイプ】
3DK
約70㎡

【Sタイプ】
2K
約45㎡

【Mタイプ】
2DK
約55㎡

【Fタイプ】
3DK
約70㎡

【Lタイプ】
3DK
約70㎡

1階

2階

外観



集会所



住戸内

